

Essential, TUNE UP & WAXING

力強く、そして美しいカーヴィングをするために必要不可欠な、スペシャルワックス&エッジチューンナップ方法

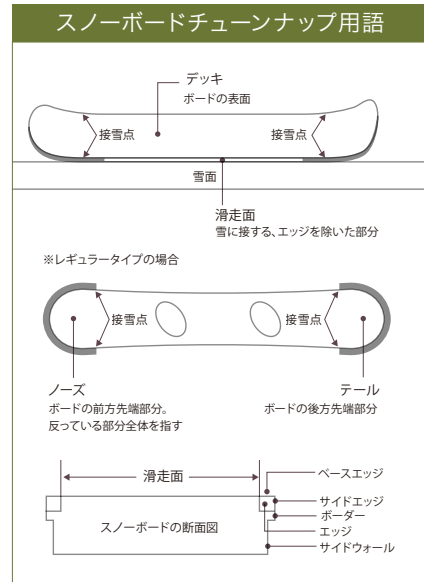
Special Thanks_GALLIUM / www.galliumwax.co.jp

より力強いカーヴィングをするためのワックス方法

ボードの手入れ(チューンナップ)は、CARVERにとって言わずと大切なコンテンツ。特にワックスは滑走性を左右する重要なアイテムだ。上級者だけではなく、中級者や初級者のレベルアップにも欠かすことはできない。気温、雪温、雪質にあったベースワックスや滑走ワックスを選択しワックス(ホットワックス&簡易ワックス)することはもちろん重要だが、ここでは更に、滑走性がアップするワンランク上のワックス方法(スペシャルワックス)を紹介しよう。力強いカーヴィングの決め手となるのがスピード。ベースワックスや滑走ワックスだけでは生み出せない更なるスピード(滑り)を生み出すのがスペシャルワックス(フッ素ワックス)だ!! 一般的には馴染みのないワックス方法だが、大会に出場するレーサーにはすでに欠かせないワックスとなっている。このスペシャルワックスをすることでスピードが増し、まわりのカーヴァーと一味違ったカーヴィングが実現できる。

より確実に美しいカーヴィングをするためのチューンナップ方法

車で例えるなら、サスペンションなど足回り、タイヤとも言えるのがスノーボードというエッジ。このエッジが錆びていたり、キズがついていたり、丸くなっているようでは理想のカーヴィングができない=車だったらコントロール不能でそのまま事故に繋がる・・・という事になる。エッジは1日滑走するだけで確実に丸くなっていく。現状のスノーボードシーンでは、エッジのチューニングをマメにしているユーザーは少ないが、アルペン競技では、ワックスと同じく重要なチューンナップ・コンテンツとなっている(頻繁に手入れするので1年でエッジの幅が半分ほどになることもある)。エッジをチューンナップすることで、滑らかにシャープなエッジングが可能になり、しっかり雪面をとらえ、確実なカーヴィング、より美しいカーヴィングが実現できるのだ。



SPECIAL WAXING

スペシャルワックス(フッ素ワックス)の使用方法

スペシャルワックス(フッ素ワックス)は、通称「スタートワックス」とも呼ばれ、大会ではスタート前に塗る事で抜群の滑りを実現し、スタートダッシュが決められる! 100分の1秒を競う競技の世界ではすでに欠かすことのできないワックスだ。もちろん、ゲレンデをフリーランする時にも威力を発揮する。また、湿雪や汚れが多い雪にも抜群の効果があるので、春雪にも欠かせないワックスだ。CARVERには必要不可欠である「フッ素ワックス」の使用方法をレクチャーしよう。

スペシャルワックス(フッ素ワックス)は、クリーニング、ベースワックス、トップ(滑走)ワックスの工程を必ず行ってからご使用ください。

パウダー・ソリッドタイプのフッ素ワックス使用方法

1 フッ素パウダーを振りかける
GIGA SPEED POWDERシリーズ、
Dr.FCG POWDERを滑走面全体に適量振りかける。

OR

2 フィニッシュコルクで延ばす
フィニッシュコルクで押しつけるように滑走面全体に満遍なく延ばす。
※フィニッシュコルクがない場合は通常のコルクを使用すること。

3 発泡スポンジで更に延ばす
更にフィニッシュコルクの発泡スポンジ面で擦り込む。

4 馬毛ブラシによるブラッシング
馬毛ブラシで滑走面を軽いタッチで仕上げ。この時使用する馬毛ブラシは、フッ素ワックス専用とすること。

5 ファイバーテックスで仕上げる
ファイバーテックス(最終仕上げ用)で仕上げる。

滑走性がアップする最後の決め手!!

6 静電気を取り除く
最後にアンスタフィニッシュパッド又はアンスタフィニッシュクロスで静電気を取り除く。

リキッドタイプのフッ素ワックス使用方法

滑走前に行うこと

- ①雪質に合わせたベースワックスとトップワックスを塗布し、完全に滑走できる状態に仕上げから使用。
- ②他のスペシャルワックス(パウダーやソリッド)と併用すると、より高い滑走性が得られ、適応範囲も広がる。また、その効果も長持ちする。
- ③何回か滑走したボードに塗布する場合は、ナイロンブラシでブラッシングを行い、滑走面に付着したゴミや汚れを取り除いてから塗布する。

1 GIGA SPEED MAXFLUOR or SUPER WET を塗る
※GIGA SPEED MAXFLUOR or SUPER WETの場合、基本的にはこれで終了。降雪時など塗布後に引っかかりが感じられた時のみブラッシングを行うこと。ただし、強くブラッシングしてしまうと、効果がなくなるので注意。

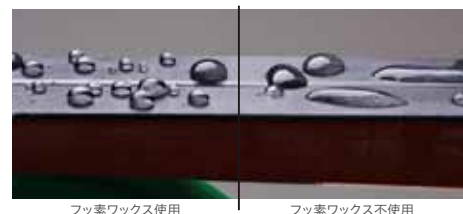
2 ナイロンブラシによるブラッシング
乾いたらナイロンブラシでごく軽くブラッシング。ただし、強くブラッシングしてしまうと、効果がなくなるので注意すること。

1 GIGA SPEED MAXFLUOR DRY を塗る

2 ナイロンブラシによるブラッシング
乾いたらナイロンブラシでごく軽くブラッシング。ただし、強くブラッシングしてしまうと、効果がなくなるので注意すること。

フッ素の効果とは?

雪面と滑走面の間には水分が発生します。その水分は滑走低下の原因につながる。この水分を弾く効果が優れているのがフッ素。フッ素は、撥水性に優れているため水分を飛躍的に弾いてくれる。また、滑走低下の一番の原因であるゴミ&油汚れの付着も軽減してくれる。



EDGE ADJUSTMENT

エッジチューンナップ

ボードの心臓部！エッジのチューニングを試みよう！！エッジが錆びていたり、傷が付いていたり、丸まっているようでは、ターンはもちろん、エッジを効かせてストップさせることも難しくなる。また、カービング時はもちろん、エッジの調整でスタイルが大きく変わってくる。そこで、滑りの心臓部でもあるエッジを念入りに点検し、エッジを削って角を立てるようにする。エッジの角度は種目、技術、コースコンディションなどに合わせて角度を変えている。

エッジの焼き取り

エッジに焼きが入っていると、ファイルで削ることができない。まずは焼きを取り除き、ファイルで削れる状態にしよう。

エッジの焼きとは？

滑走中に石等(硬い物)を踏んだ時の摩擦によって、高熱が加わり、雪によって急激に冷やされ、その部分が極端に硬くなる現象。



ベースエッジの焼き取り

エッジに焼きが入っていると、ファイルで削ることができない。ダイヤフェイス(#100又は#200)を使って、ベースエッジの焼きを取り除く。
※ダイヤフェイスは、水とアルコールを1:1に混合した溶液で(水だけでも可)で必ず濡らしてから使用すること。



サイドエッジの焼き取り

エッジに焼きが入っていると、ファイルで削ることができない。ダイヤフェイス(#100又は#200)をファイルガイドにセットして、サイドエッジの焼きを取り除く。
※ダイヤフェイスは、水とアルコールを1:1に混合した溶液で(水だけでも可)で必ず濡らしてから使用すること。

ベースエッジビベリング

エッジの調整の中でも、ベースエッジビベリングは滑走面側のエッジに回転しやすい角度を付けること。

角度は滑走面の形状やスノーボーダーの技術、種目、コースコンディションなどによって異なり、スノーボードの性能を引き出すための重要な作業だ。

ベースエッジを削る(図⑤参照)

粗目又は中目のファイルへ、ビニールテープなどを巻き、ベースエッジをビベリングする。ビベリングの方法は、滑走面の状態で(図⑥参照)若干異なる。



フラットの場合

ファイルのエッジ側に載せた手に均一に加重しながら少しずつ削ること。この時あまり加重させすぎると波を打ったり、思った以上にビベリングしてしまうので注意しながら削ること。よりビベリングしたい場合は、ビニールテープなどを巻いて削ること。

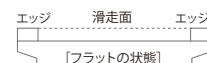
コンベックスの場合

この状態は、エッジがかかりにくい状態(回転しやすい状態)。削り過ぎに注意しながらファイルにビニールテープなどを巻いて削ること。

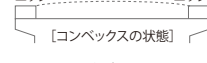
コンケーブの場合

この状態はエッジがかかりやすい状態。ビニールテープなどを巻かなくてもエッジにファイルがあたるので、[フラットの場合]で行う作業を参考に削っていくこと。

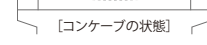
図③



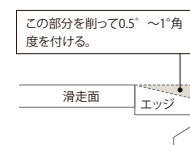
図④



図⑤



図⑥



サイドエッジビベリング

サイドエッジビベリングはエッジに角度を付けることで、エッジグリップが増し、シャープな回転を得る為に行う。角度は、スノーボーダーの技術、種目、コンディションなどによって異なる。大きな角度を付けると操作が難しくなるので、自分に合った最適な角度(90°、89°、88°、87°、86°)を付けよう。

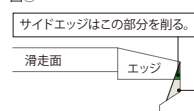
1 ボーダーを削る



エッジを研磨の際、エッジを保護しているボーダーが邪魔になるので、ボーダーカッターを使ってボーダーを切り落とす。(図⑦参照)

ボーダーが邪魔なのでボーダーカッターで削る。

図⑦

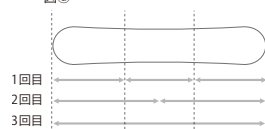


2 サイドエッジを削る



ファイルガイドにダイヤフェイス(#100又は#200)もしくはファイル(粗目又は、中目又は細目)を固定して、サイドエッジを研磨する。(図⑧参照)
※最初は何分割かに分けて短めのストロークで削り、徐々に長めのストロークで削ること。(図⑧参照)
写真左:ダイヤフェイスを使用した場合
写真右:ファイルを使用した場合

図⑧



3 バリを取り除く



●ファイリングでできたベースエッジのバリをダイヤフェイス(#400又は#600)で落とす。
●次に、ダイヤフェイス(#400又は#600)をファイルガイドにセットして、サイドエッジのバリを取り除く。
●ベースエッジ、サイドエッジの順に3セット程度交互に行うときれいに仕上がる。
※作業を終える時は必ず**サイドエッジの研磨**で終了すること。ベースエッジの研磨で作業を終えると、サイドエッジにバリが残り、ターンの途中でスノーボードが引っかかる原因となり危険。

4 ダリリング



ノーズやテールのエッジが鋭立ち過ぎていると、スノーボードが雪面に引っかかって、思うようにターンできない。また、転倒した時、自分のスノーボードで怪我をすることもあるので、ノーズとテールの部分のエッジをダリリングする。図⑨の黒大部分のエッジが立っていると、ターン時にエッジが引っかかり、うまく曲がれないため、この部分をサンドペーパー#150で調整する。
※種目・コースコンディションにより異なるので、少しずつ調整すること。

図⑨

